

◎今週の御言葉「もう一つの登録」(ルカの福音書2章1～7節、ルカの福音書10章17～20節)

「だがしかし、悪霊どもがあなたがたに服従するからといって、喜んでではありません。ただあなたがたの名が天に書きしるされていることを喜びなさい」(10:20)。 仲森文穂

○イエス様はベツレヘムで誕生されました。ローマ皇帝に強いられ、住民登録をするためにヨセフと身重のマリヤが長い旅をしなければならなかった、そこに支配された人々の悲しみや圧迫された人々と共におられたのですね。こどもは親も家も庭も自分で選べません。でも、その家庭に生まれる必要があつて、神様が生まれさせてくださったのです。イエス様の場合も、父をヨセフとし、母をマリヤとして生まれてくるのが神様のご意思でした。イエス様が飼葉おけに寝かされたのも、神様のご意思でしょう。信仰の世界は、現実を受け入れ、自分がどのような生まれ方をしようが、どのような家庭に生まれようが、現実を受け入れ、そこに意味を見つけないとすることが信仰の世界です。

○イエス様は30年の後、公生涯に立たれました。30年待たれたのです。私たちは、つい自分の時で動きます。神様の時を待つことが仲々できません。イエス様は徹底して、天聖を、神様を見上げて生きられました。私の好きな文語体の聖句に、「せんかた尽くれども、望みを失わず」とあります。万事休すという状況でも、天を見上げて希望を語る、そんな人がそばにいたら、とても励まされます。私たちには、天を見上げることが必要なのです。イエス様がそうでした。ですから、しいたげられた人の側に身を置きながらも、あんなに力強く生きられたのです。天を見上げるのは逃避だと言う人がいますが、それは天を見上げたことのない人の言い分です。逃避どころか、しっかり現実を見つめ、受け入れ、人が人として生きる道を歩む力となるのです。

○イエス様は地上の登録以外に、もう一つの登録が天にあると仰います。ルカ10:17以下で宣教に遣わした70人の弟子たちが戻ってきて、喜んで伝道の成果を報告した時、悪霊どもが従うことを喜んではないと言われ、むしろ私と共に生きることによって、あなた方の名が天に記されていることを喜びなさい、と仰いました。これこそ、イエス様がこの地上に来てくださった目的ではないでしょうか。使徒パウロもフィリピ3:20で「私たちの本国は天にある」と言い、そこにキリスト者の喜びがあると語っています。

この後、河野美智子さんが洗礼を受けられます。洗礼式は、まさに天に名を記される儀式ですね。クリスマスの喜びと共に、心からお祝いを共にしたく思います。